

ちいさな証

光の国への招待状

脇山多恵子

スイス日本語福音キリスト教会



愛する主のお名前を心から賛美いたします。

昨年、スイスでの生活が30年を迎え、なんと日本にいた時より長くなってしまいました。その間を振り返ると試練も含めてたくさんのことを経験させていただきました。

ただ一つ言えることはいつも神様が共にいて支え続けてくださったということです。どんな

苦しみの中でも、孤独で打ちのめされそうな時も、生きていくことが辛くてどうしようもない時も、その時はそう思えない時でも、確かに神様は「主よ、あなただけが神です、あなたを信じます。」と告白した時から私のようないやしい者の心の内に住んでくださって、何があっても見捨てたりせず導き続けてくださいました。

悲しみを喜びに変え、泣き顔を笑顔に変え、30年という痛みのある生活をも感謝できる者として少しずつ成長させてくださり、いつ死が訪れてもおかしくない日々感じているのにもかかわらず今日まで生かしてくださっています。絶望の中にある私に希望を持つ力を与え、決してあきらめずに忍耐し待ち続けてくださり、大いなる愛を持って、その都度立ち上がることができるようにしてくださいました。



そのために私にできること、自分で頑張ることではなく、神様に信頼して、すべてをゆだねて神様の方向を向いていなかった自分を悔い改め、神様に自分の弱さをさらけ出し、ただ一言「神様ごめんなさい、こんな私を赦し助けてください。」って言うことだけでした。

神様は求めると必ず答えてくださる方です。それもすべてをご存知の方が最高の時に最善の方法で示してく下さるので、時に人の思いをはるかに超えすぎていて理解できないこともあります。が愚かな者の願いも聞いてくださり、良い物へとかえてくださるとわかってからは、お祈りすることで主と会話をし、今度はどんな

方法で神様は応えてくださるのだろうと楽しみに待つことができるようになってきました。

そして神様が喜んでくださることが自分の喜びとなり、そうしたい、またそのような者になりたいと思えるようにさせていただきました。

今はガラテヤ書にある愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制という御霊の実を神様に与えてくださるようにと願い求め、たくさんの実をつけることができるようになりたいと祈っています。

そして私のような者をも救い、永遠の御国に入ることを許してください、人間が作った神々ではなく人間を創ってくださった神様の想像をはるかに超えた愛を知り、一人も滅びることがなく神様のおられる光の国への招待状を受け取ることができるように、今も忍耐し待ってくださっているイエス様のために共に働き主の僕として、この世での生活を全うしたいと思います。



最後まで私と共にいてくださる主をあがめ、平安と希望を与えてくださる唯一絶対のお方に、すべての栄光を帰することのできる者として、これからも歩み続けていきたいと思えます。

プロフィール

主人との結婚によりスイスでの生活が始まり、一年もしないうちに激痛を伴う病が与えられ、3年後に薬の副作用により胃と脾臓を全摘出手術、そして車椅子生活も経験し、寝たきりになることを宣告され、一時は身体を動かすこともできなくなり、水の入ったコップすらも持てなくなっていました。

それ以外にも貧血、不眠症、シェーングレン症候群、そして骨粗鬆症により毎年骨折していない時がないというほど骨折を繰り返し、何度も歩けなくなり、ありとあらゆる痛みを体験しました。

今年の2月に突然腰がおかしくなり、起き上がるのにも悲鳴をあげるほどの激痛で、一人で着替えることもできなくなってしまいました。

私にとって痛みは神さまにより近づくための方法であり、神様からのプレゼントとして感謝して受け取るための良き訓練となっています。

